

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	愛媛大学
事 業 名	愛媛リアルワールドデータを活用した臨床研究実践人材養成拠点形成
事 業 責 任 者	愛媛大学医学系研究科長・医学部長 羽藤 直人
事 業 の 概 要	
愛媛大学医学部は、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社と産学協働講座を開設し、愛媛全県民を対象とした愛媛リアルワールドデータ活用環境を構築している。次世代医療基盤法に基づき県内病院の医療情報の集約、愛大コホート研究（約1万人）、癌登録、介護保険等のデータを連結する。本事業では、本学部附属病院の臨床研究支援センター内に「臨床研究推進部門」を設置し、臨床医が研究計画から論文受理まで完遂できる指導サポート体制を構築するとともに、本学及び県内病院の医師が臨床疫学研究を実施する際の拠点形成を目指す。全診療領域をカバーするが、特に10領域を重点化する。また、医学博士と公衆衛生学修士2つの称号付与者を増やす。院生、学部生を登用し、臨床医をサポートするRA、TA、SA雇用を促進しながら、質の高い臨床研究医を多数養成する。加えて、疾患マネジメントソリューションの研究開発等民間との産学連携を推進する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○協働体制の広がり大きい。県単位のデータは他との差別化が可能である。 ○コホートデータ収集の基盤がある。 ○本事業を人材育成に集中させていることは、戦略的に優れている。 ○公衆衛生大学のMPHとPhDのdouble degree取得、大学院の早期修了など新しい試みを提示。 ○全国初の県単位のリアルワールドデータのプラットフォーム構築。 ○シミュレータを活用している点が優れている。 ○エコシステムの構築など、合理的な運営管理を目指している点は評価できる。 ○既存体制と産業との連携がうまくできている。 ○長期継続の計画が立てられている。 ●どのような研究になれば国際的になるかが不明確である。 ●産学共同講座による研究と本研究との切り分けが不明瞭である。 ●人材育成には時間がかかり、成果を上げるには時間がかかる。 ●研究内容が高度化し、習得すべき内容も多岐にわたる現在、double degreeの取得や大学院の早期修了が質の高い研究に繋がることを明示することが望ましい。 ●臨床研究を実践する医師の教育研究時間が年間300時間目標は低い印象がある。 ●事業の構想内容が、プラットフォームの構築やデータセットが完成予定であることは示されているが、これを用いてどんな事業を行いたいのかが不明確である。 ●診療参加型臨床実習における協力医療機関での実習を100時間増加が実現可能か懸念がある。 ●最終年度に治療4の項目ほとんどを達成する目標は医師の負担が大きいのではないか。 ●県全体データは評価できるが、他と差別化についてより明確であれば尚良い。 ●一次予防データを出すのに、規模は妥当であるか検討することが望ましい。 ●拠点大学として他大学や他の研究機関と連携していくことが望ましい。 ●各年度の計画がほぼ同じ内容であり、年度ごとに特徴ある計画が練られているわけではない。	